2016 年度　センター試験　生物　（本試験）　分 析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：7 題（第 6・7 問から 1 題選択）　解答数：32 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化　○ やや難化　○変化なし　● やや易化　○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加　● 変化なし　○ 減少
出題分野の変化	○ あり　● なし
出題形式の変化	○ あり　● なし
新傾向の問題	○ あり　● なし

総評

全体的に問題の構造がシンプルで、複雑な考察を要する問題は見られなかった。また、選択肢が多い問題も減少した（昨年度は 9 択が 6 問、8 択が 10 問、今年度は 9 択が 0 問、8 択が 6 問）。このため、昨年と比べるとやや易しくなった。昨年度同様、生物（4 単位）の全範囲から万遍なく出題されていた。ただ、昨年度は選択問題の一部が生物基礎の内容で構成されていたが、今年度はそのような問題は無かった。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	A:酵素 B:細胞	18 点	酵素や細胞に関する基礎的な内容の問題であった。教科書の内容を理解していれば解ける問題であった。
第 2 問	A:動物の発生 B:植物の生殖	18 点	問2・問4のように、資料をもとにタンパク質や遺伝子のはたらきを考察させる問題を含むが、選択肢が少ないため答えやすかった。
第 3 問	A:動物の環境応答 B:植物ホルモン	18 点	動物の環境応答については基本的な内容が問われていた。植物ホルモンについては、オーキシンやサイトカイニンについてのやや詳細な知識が必要とされた。
第 4 問	A:個体群と生物群集 B:個体群と生物群集	18 点	A については標識再捕獲法の計算を含むが、基本的な問題であった。B については実験の内容をよく読んで答える必要があった。
第 5 問	A:進化 B:進化	18 点	問 4 のヒトの進化について問う問題は、ヒトの祖先の出現年代を正確に問うもので、やや難しかった。
第 6 問	光周性、光合成、遺伝子	10 点	問 3 の計算問題は示されている質量が何を意味するのかを理解しないと解くことが難しかった。
第 7 問	個体群と生物群集	10 点	血縁度という難しいテーマからの出題であったが、問題文や選択肢がわかりやすかったので解きやすかった。

Copyright (C) 2016 Johnan Prep School